

## 「陸水物理学会」設立の経緯と趣旨

本会は、1976年10月に開催された第41回日本陸水学会函館大会での集会討論を端緒として、今後の陸水学・水文学の物理的(physical)な分野の発展に対応した研究会の発足が必要との認識のもとに協議が重ねられ、1978年1月に「陸水物理研究会」が設立された。最初の研究発表会は、1978年11月29日に立正大学地理学科自然地理研究室で開催され、本会の第1回全国大会は1979年12月1～2日、東京都立大学理学部 地理学教室で開催されている。2018年11月16～18日に開催された石垣大会は、第40回という記念すべき大会となり、これを機に2019年度からは、本会を「陸水物理研究会」から「陸水物理学会」に名称を改め、年一回の会誌の発行を目指すこととなった。

本会が関連する分野は、雪氷・地形・湖沼・河川・地下水・温泉・地すべりなどにまたがり、沿岸の海水・汽水を含む陸水全体の循環・営力作用のプロセスを明らかにすることを目的としている。現在は、地球温暖化・乾燥化にともなう水循環の活発化・偏在化に対応したグローバルな研究がさかんである。それに応じるためにも、その理論的基礎となる物理的プロセスを解明するための研究は、今後ますます重要になると考えられる。ここに、本会が果たす役割の重要性がある。

(2019年3月1日)